

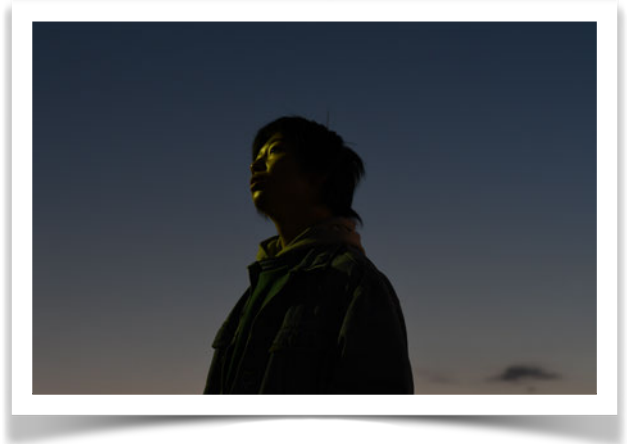
亘理町地域おこし協力隊
本城祐哉
2023年度 活動報告



2023年11月本城祐哉自主公演『波書』より

本城祐哉

1996年生まれ 兵庫県出身
ダンサー、振付師、音楽家、俳優



(撮影 松本真依)

ミュージカル俳優ジーン・ケリーに憧れ、4才からクラシックバレエ、6才でジャズダンスとタップダンスを始める。

県立宝塚北高等学校演劇科28回生。卒業公演の音楽劇では振付チームのチーフを務め、その舞踊研究の中でエンターテイメント以外のダンスの可能性を求めコンテンポラリーダンスを始める。

2015年 Joffrey Ballet School jazz&contemporary summer intensive にスカラシップ100%で参加。アートとエンターテイメントのハイブリッドのようなアメリカンスタイルのダンスを学ぶ。この頃から、自身でも振付をはじめ。

2016年から、世界的振付家島崎徹氏の作品に参加し、台湾や横浜で上演を行う。

2017年、京都を拠点に活動するアーティスト集団幻灯劇場に入団。以降、文化庁文化交流事業の大韓民国演劇祭参加作品であり現地誌にて「沈黙のサーカス」と評された『56db』でのダンスシーンや、未来の日本を描いた『0番地』では絶滅していく架空の民族の伝統舞踊の振付など、ダンサー、振付師、俳優として国内外多数の作品に参加。また同劇団では劇中歌などの作曲も務める。

2018年 Festival Tokyo オープニングプログラム ピチエ・クランチェン振付・演出『MI(X)G』に出演。南池袋公園にてゲリラ的に行われた同作品で公園内外にいた観衆を作品内に取り込むマイクパフォーマンスなどの大役を果たした。ウクライナにて、ウラジミール・マラーホフ氏主催のガラコンサートで島崎徹氏振付作品に出演。世界各国のトップダンサーから高い評価を受ける。

2019年 自身の作品『react』で、横浜ダンスコンペティション コンペティションII ファイナリストに選出。

2022年1月より宮城県亘理町に移住し、舞踊の持つ「祈り」についての研究を始め、

2022年5月 自主公演『you.phantom』

2022年6月 INDEPENDENT:SND22 『phantom party』

2022年12月 本城祐哉×幻灯劇場『虎と娘』

2023年11月 自主公演『波書』

などの作品を宮城県を中心に精力的に自作品を発表。

2023年度の活動目的

文化芸術に触れる機会を増やす。体験すること、鑑賞、観劇すること。

自主公演の上演

舞台芸術の鑑賞機会の提供。生の舞台からでしか享受できない体験を「劇場のないまち」にも立ち上げることで文化の地域格差の歯止めに貢献し、後進の芽を生む。

また、新作を創作することは本城祐哉が舞台芸術業界で評価されるための素材作りにもなる。今後、町外や県外でのコンペティション参加や上演を通して自身の知名度を高くすることで、活動を通して亘理に目を向けてもらう。

地域イベントなどへの出演

町民と共にワークショップを経てパフォーマンスすることをゴールとした芸術を体験し触れる機会。東北にはまだ人口の少ないコンテンポラリーダンサーとしての特異性を活かした唯一の経験を与える。

2023年度の活動報告

楽曲制作

今年度作曲した楽曲は全部で10~15曲。一部を各種配信サービスで公開。



SoundCloud ↓

音楽配信サービス。自作品の劇中歌やオリジナル曲などを随時更新中。

[https://m.soundcloud.com/umacn8njmks?
utm_source=clipboard&utm_medium=text&utm_campaign=social_sharing](https://m.soundcloud.com/umacn8njmks?utm_source=clipboard&utm_medium=text&utm_campaign=social_sharing)

YouTube ↓

映像作品やパフォーマンス動画を中心に投稿。

<https://youtube.com/@honjorno?si=p9husxnbGTF8K92>

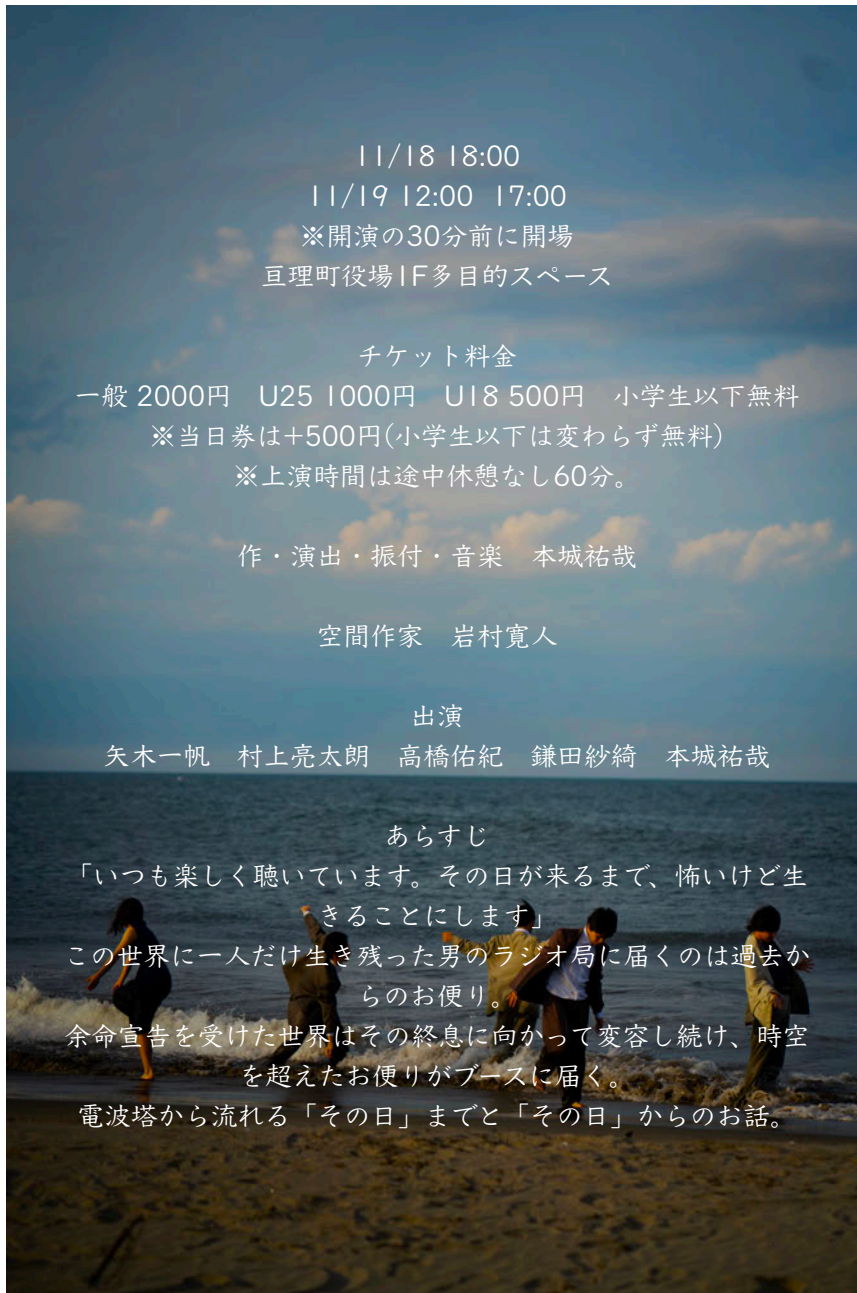
自主公演 『波書』



同じ協力隊である岩村寛人氏との共作。

国内で活躍するプロのダンサー、そして町民である高校生ダンサーをキャストに迎え、構成、振付、音楽、舞台装置、全てをオリジナルで創作し上演。文化芸術としての視点では、今回の公演はフィジカルシアターという舞台芸術の手法をとった。これはまだ日本では輸入されたばかりの新しいジャンルの舞台芸術であり、いち早く新たな文化を東北地方で表現できたことにも意義を感じる。巨理町で初演を行なった作品として、国内外で再演されるような成長を期待し、目的として努力し来年度の活動も続けていきたい。

公演情報



11/18 18:00
11/19 12:00 17:00
※開演の30分前に開場
互理町役場1F多目的スペース

チケット料金
一般 2000円 U25 1000円 U18 500円 小学生以下無料
※当日券は+500円(小学生以下は変わらず無料)
※上演時間は途中休憩なし60分。

作・演出・振付・音楽 本城祐哉

空間作家 岩村寛人

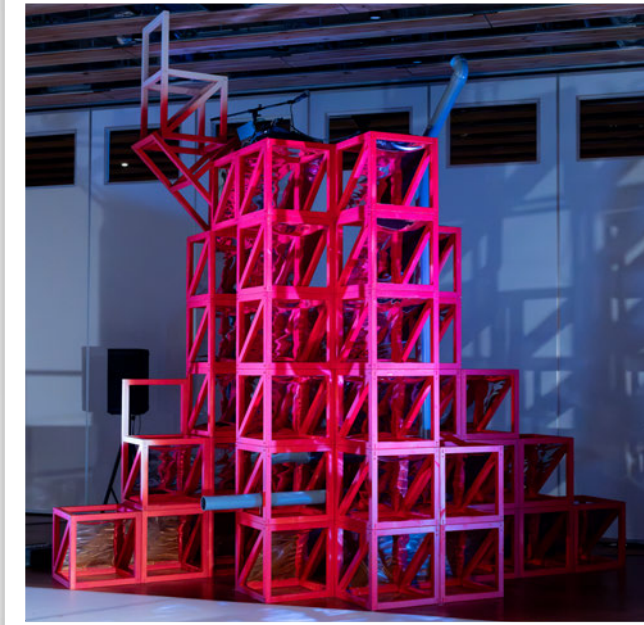
出演
矢木一帆 村上亮太郎 高橋佑紀 鎌田紗綺 本城祐哉

あらすじ
「いつも楽しく聴いています。その日が来るまで、怖いけど生きることにします」
この世界に一人だけ生き残った男のラジオ局に届くのは過去からのお便り。
余命宣告を受けた世界はその終息に向かって変容し続け、時空を超えたお便りがブースに届く。
電波塔から流れる「その日」までと「その日」からのお話。

集客結果

	一般	U25	U18	小学生以下	招待	合計
11/18 18:00	22	1	3	8	1	35
11/19 12:00	25	2	3	3	1	34
11/19 17:00	22	2	2	3	3	32
3回合計	69	5	8	14	5	101

アルバム



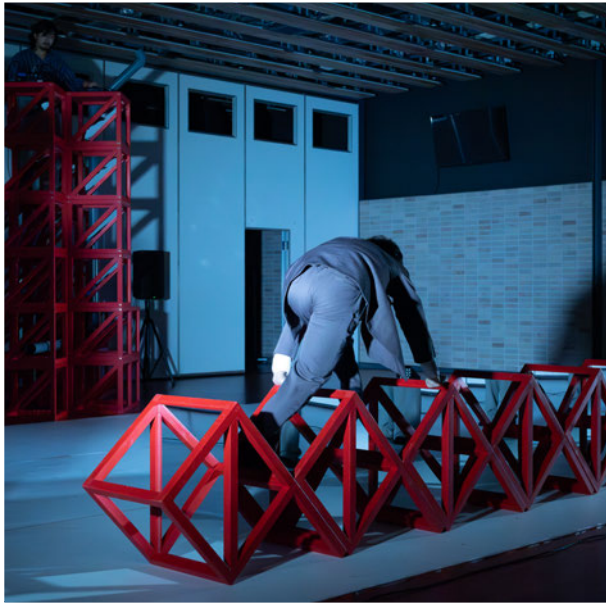
岩村寛人氏による舞台美術。

同じモチーフを連続させた電波塔を彷彿とさせるデザイン。塔の頂上にはラジオブースが設けられ、上演では実際にこのブースから生演奏が行われた。



上演時間は約60分。

4名のダンサーは一度も舞台上からはけることなく「終末に向かう家族」を熱演した。



舞台上の小道具。

電波塔と同じ抽象的なデザインであり、椅子や机、梯子など様々な物に見立ててシーンを作り上げていく。舞台芸術ならではの表現は正に生の上演でしか感じられないものである。



映像作品

作品の一部を抜粋し、映像作品を撮影。YouTubeに公開。



わたりふるさと夏まつり出演

公募した町内の小学生17名と高校生ダンサー1名と共に、6月から計6回のワークショップを通じて作品を作り上げ、8/15に開催された
巨理ふるさと夏まつりのステージに出演。

本城は振付と音楽を担い、当日も音楽の生演奏でのパフォーマンスを行なった。

参加した子どもたちは楽しみながらワークショップに参加しており、様々な表現方法に興味を持ちながら望んでいた様子が見られた。

また、当日のステージ披露では、小学生の保護者などが見に来ていたため、体験、鑑賞の二方面からアプローチすることができた。今後もこのような活動を続け、町民の方が文化芸術を身近に感じられるよう活動していきたい。



ワークショップの様子。



当日の様子。

その他イベントなど

9/30

東北未来芸術花火2023 出演

畠山有希隊員、RIKIYA隊員の主導で企画された、町内の子供達とのステージに振付と出演で参加。自身の楽曲やダンスパフォーマンス、歌唱など様々な表現方法でステージに貢献した。



11/8

亘理中学校1学年PTA行事 参加

畠山有希隊員、RIKIYA隊員と共に参加。演出、構成から当日の進行まで全てを隊員で担い、中学生に体験する、鑑賞する機会を提供した。

生徒には、内容への参加を強制せず、音楽やダンスのワークショップを自由に鑑賞、体験、反対にそれを無視することもできる場所づくりを心がけた。

自らが興味を持ち、自分の意志で芸術に触れること、触れないことを選択するという経験を与えたいというコンセプトのもと「誰にも否定されない自由な空間」を作り上げた。



ダンス教室「SKrew」について

わたりふるさと夏まつり、『波書』で共演した巨理町の高校生ダンサー
鎌田紗綺をインストラクターとするダンス教室のオープン監修。
1月からプレオープン、体験レッスンなどを行い、4月からの本格始動を
目指し活動中。



↑1月に開催された体験レッスンの様子

ダンス教室「SKrew」の Instagram アカウント↓

https://www.instagram.com/dance_skrew/

監修の業務

- ・レッスン会場である貸スペース「OPOCHI」さんとの料金設定、連絡、調整。
- ・生徒の保護者との連絡。
- ・Instagramアカウントの管理、投稿内容チェック。
- ・出演依頼などの窓口。

2023年度、振り返り

2年目となった2023年度は、芸術家としての個人的な目標や目指す表現が、それを町の中でアウトプットすることとごく自然に両立できた年だった。音楽、舞踊、演劇、様々な表現を生業とする本城祐哉という芸術家個人にとって充実したクリエイションを一年通じて行えたこと、そしてそれを発表する機会が町内にたくさんあったことがとても心身にバランスよく作用した一年だった。イベントへの参加2回、亘理中学校での講演などを通して町民が舞台芸術に触れる機会を作り、そこから興味を持った人々が舞台を観劇しにくる。芸術界全体の理想とする形を極小規模ながら一から作り上げることができた。

2024年度、今後の活動予定

新ユニット立ち上げ

東北各地の脚本家、演出家、プロデューサーなどが集まり、フィジカルシアターのユニットを結成。旗揚げ企画として上演会場に亘理町も含む東北ツアーを計画。町内、町外の両方に芸術の鑑賞体験をさらに広めるとともに、ツアーを通して外から内への関係人口の増加への一助となる。

楽曲制作

2023年度は自身の舞台作品や依頼された楽曲などの製作が主な創作になったが、2024年度はオリジナル曲の製作により力を入れ、配信やパフォーマンス活動をより積極的に行なっていきたい。発表の場として町内のイベントへの出演、その他に町内でのライブパフォーマンスの機会なども企画して、町内のエンターテイメントに触れる機会を増やしていく。